

Dokkyo Medical University Saitama Medical Center

獨協医科大学埼玉医療センター 病院だより

2018.9
32号



● 主な内容 ●

周産期母子医療センターの紹介	2
患者会でのイタリアンレストラン食事会の活動について	3
第二整形外科の開設について	4
獨協医科大学公開講座のお知らせ	5
病院への手紙	6
エコキャップ回収活動報告書	7
獨医連 阿波おどりへの誘い	8

周産期母子医療センターの紹介

周産期母子医療センターは、1号館のリニューアル事業の一環として、平成30年4月に同館3階に新設されました。同時に埼玉県より地域周産期母子医療センターとして、診療を開始いたしました。新生児部門にはNICU（新生児集中治療室）、GCU（新生児治療回復室）、産科部門にはMFICU（母体胎児集中治療室）、LDR室（陣痛、分娩、回復室）、一般産科病床を配置しています。

○周産期医療とは

「周産期」とは、妊娠22週から出生後7日未満までの期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる期間です。周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要であることから、特に「周産期医療」と表現されています。



産科病室（一般病室）

○診療内容について

母と子双方の健康と命を守り抜く事を使命とし、正常妊娠・分娩はもとより合併症妊娠や異常分娩、早産児分娩や早産児・病的新生児に対して産婦人科（周産期）医、小児科（新生児）医、助産師や新生児専門看護師、臨床心理士、臨床遺伝専門医などでチームを組み質の高い医療を実践しています。

産科部門では、大学病院の特色を生かし、循環器疾患や自己免疫疾患、糖尿病や精神疾患など合併症を有する女性の妊娠分娩管理も関連各科と連携し安全な管理に努めております。また、品胎〔三つ子〕を含む多胎妊娠、前置胎盤、切迫早産などのハイリスク妊娠や、常位胎盤早期剥離や妊娠高血圧症候群、産科危機的出血など産科診療所などで対応困難な症例を積極的に受け入れています。



産科病室（LDR）

新生児部門と連携し、出生後は必要に応じてNICU、GCUで新生児を管理させていただきます。また、新生児部門では近隣の産科診療所などで出生後に、呼吸障害がある児・心不全症状がある児・低体重出生児・早産児などの新生児搬送も受け入れています。

もちろん、当センターでは合併症を持たないローリスク妊婦も受け入れており、安心・安全かつ満足度の高い医療の提供を目指しています。分娩はLDR室で行い、産後は原則個室（母児同室）で管理を行っ

ています。また出産という大切な時間をご家族で共有していただくため配偶者（パートナー）の立ち合い出産も可能です。（出産に関して詳しくは当院ホームページをご覧ください。）

周産期母子医療センターでは、母と子双方の健康と命を守り抜くため、安心・安全な医療を提供していきます。妊娠や出産、お子様の事で何かご心配な事がございましたら、いつでもご相談にいらして下さい。スタッフ一同でお待ちしております。



NICU（新生児集中治療室）

患者会での イタリアンレストラン食事会の活動について

当院栄養部は、患者さまの給食管理と栄養管理を担当していますが、患者さまをサポートする業務のひとつにチーム医療への参加があります。私は、糖尿病チームに参加する中で、患者会「ひまわり会」の活動も行っています。その患者会イベントに管理栄養士が中心になって行う、イタリアンレストランを利用した食事会があります。



糖尿病チームメンバー

食事会での活動とは

当院の近くにあるイタリアンレストランと提携して、低エネルギーのコース料理を提供しています。管理栄養士がメニューの考案、レストランとの打ち合わせ、食事会での料理の解説を行います。おしゃれな雰囲気の中で患者さまやご家族に楽しく食事をしていただきながら、外食のエネルギー量を学ぶことができる学びの場であり、参加者の方から好評をいただいております。また、メニューはエネルギー量や味だけでなく、患者さまが自宅でも作れるように、一部のメニューは調理工程を簡素化し、提供しています。実際の料理を味わいながら、家庭でも活かせるレシピのポイントも示しています。通常の栄養指導とはまた違った実践的な情報を提供できるのも食事会の特長です。

当院では、高齢者の栄養指導が多く、「何を食べてらいいの心配」「2人暮らし（独居）だし、作る料理も同じものになってしまう」という声が聞かれます。この食事会を通して、いろいろなものが食べられることを知っていただきたいです。



こちらのコースメニューで約 600 キロカロリーです。コーヒーもつきます！

食事会は患者さまやスタッフとのコミュニケーションの場であるとともに、楽しみながら食事の重要性を実感できる貴重な機会になっています。参加者の方が、食事療法に対して、気づきがあったり、みんなで美味しそうに料理を食べているところを見ると、私自身とても嬉しく思います。

今後も、地域の学びの場として、低エネルギーコース料理が、患者会以外の方や地域の方にも、楽しんでいただけるよう検討中です。食事療法を必要としている方のお役に立てるよう努力してまいります。

第二整形外科の開設について



埼玉医療センターでは 2018 年 6 月に第二整形外科を開設し、股関節・膝関節の専門医 4 名（股：神野哲也、品田良太、膝：渡邊敏文、齋藤龍佑）が赴任いたしました。

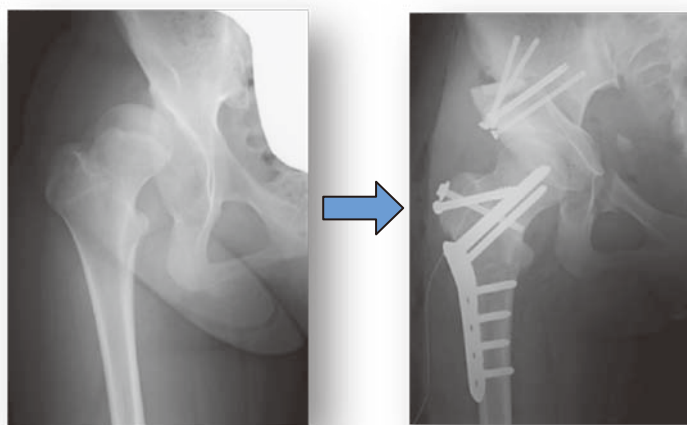
診療内容

整形外科は体を動かす「運動器」の病気や外傷を扱う診療科です。対象部位は首から下の全身にわたるため多くの専門分野がありますが、第二整形外科では、正常な歩行に不可欠な**股関節**と**膝関節**を専門対象としています。加齢を背景に生じる変形性股関節症・変形性膝関節症のほか、股関節では指定難病でもある特発性大腿骨頭壊死症、日本人女性に多い寛骨臼形成不全、股関節脱臼・ペルテス病・大腿骨頭すべり症などの子供の病気、膝関節ではスポーツ外傷としても重要な膝靭帯損傷、半月板損傷なども含め、小児から高齢者まで幅広く対応いたします。

特色

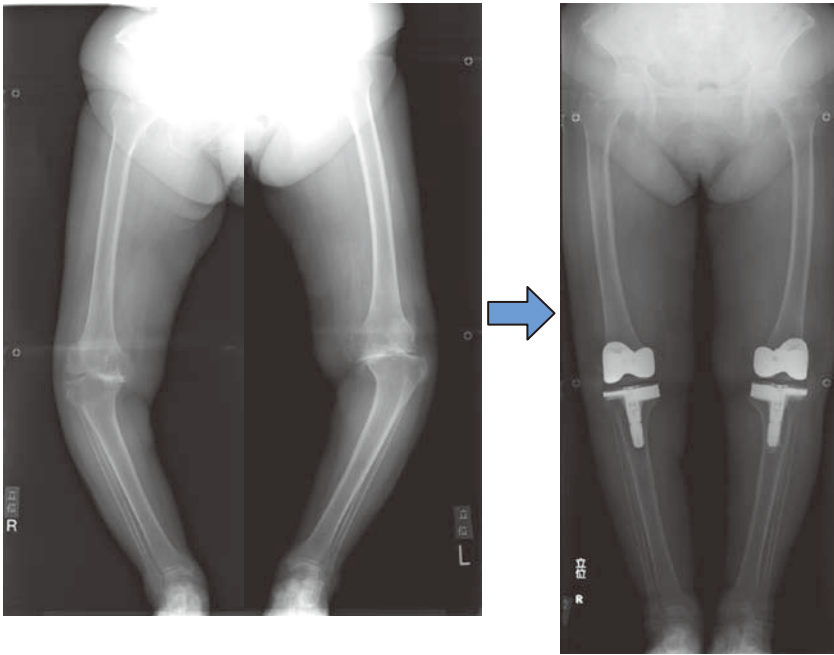
変形性股関節症や変形性膝関節症で手術が必要な場合は、**人工関節置換術**や各種の**骨切り術**の中から、関節の状態や患者さんのニーズを考慮して最適な手術方法をご提案します。若年・早期の関節症では、関節温存手術である各種骨切り術が症状緩和と進行予防に有効です。股関節では寛骨臼回転骨切り術、キアリ骨盤骨切り術、大腿骨骨切り術など、膝関節では高位脛骨骨切り術、大腿骨遠位骨切り術などがあり、それらの合併手術も含めベストの方法を選択します。

高度寛骨臼形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術・大腿骨減捻骨切り術



関節温存手術が適さない場合は、究極の治療方法として人工関節置換術があります。股関節では、術直後から動作制限を要さない手術を原則としています。膝関節では関節の状態に応じて単顆型置換術も行います。股関節・膝関節ともに両側同時手術も可能で、速やかに” forgotten joint ”（何ら意識しない関節）となることを目指します。

両側変形性膝関節症に対する両側一期的人工膝関節全置換術



大学病院として手術を中心に行いますが、運動療法や薬物療法など、手術以外の**保存療法**をご提案する場合があります。正確な診断の上で、症状やニーズに合わせて各種治療方法からベストの方法をご提案いたします。



膝痛に対する「痛点ストレッチ」
(渡邊敏文准教授 NHK「ためしてガッテン」)

獨協医科大学公開講座のお知らせ

今年度も公開講座を開催することとなり、埼玉医療センターで開催される講座は以下のとおりとなります。

平成3年よりスタートした公開講座は今年で26年目を迎えることができました。地域の皆様にご満足いただけるよう充実した講座にしたいと考えておりますので、皆さま是非お誘いあわせの上、多数ご参加ください。



メインテーマ「健康寿命を延ばすには」

日程・講師名

- ① 日 時：10月6日（土）14：00～15：30
テーマ：リハビリは健康寿命を延ばす
 講 師：リハビリテーション科 准教授 大 林 茂
- ② 日 時：10月13日（土）14：00～15：30
テーマ：大事な人を守るために～ストップ！脳卒中～
 講 師：神経内科 准教授 赤 岩 靖 久
- ③ 日 時：10月27日（土）14：00～15：30
**テーマ：一人人生100年時代の『入院から退院（その先）まで』を考える—
 あなたやあなたの大切な家族のために看護師が伝えたいこと（仮）**
 講 師：看護部 師長 水 村 志 保

1. 会 場：獨協医科大学埼玉医療センター 4号館大会議室
2. 受講定員：80名（申込順）
3. 問合せ先：事務部庶務課

T E L 048 - 965 - 9137

病院への手紙にお答え致します

～当院の各部署に設置してあります。ご意見箱に寄せられる
患者さまのご意見・ご要望等「病院への手紙」に対する回答～

* 外来での呼出について

〈外来患者／年齢・性別不明〉

名前で外来の呼出しをされたくない。希望者は受付番号等で呼び出すなど対応してほしい。

お答えいたします

貴重なご意見ありがとうございます。ご希望者様には既に対応できるようになっております。受付時にその旨お申し出くださいませ。

* 入退院窓口について

〈入院患者／年齢・性別不明〉

入院するたびに受付の時間が長く大変。予約入院と当日入院の窓口を分けるなど、スムーズな対応をしてほしい。また、前納金を自動精算器で払い戻しできるようにしてほしい。

お答えいたします

貴重なご意見ありがとうございます。入退院窓口ならびに患者支援窓口を、現在より広いスペースに移設する計画がされております。これにより待合室の確保や待ち時間の改善が図れるものと考えます。

入院時前納金の精算を自動精算器で取扱いする機能がなく、ご迷惑をおかけしております。メーカーに前納金返金のシステムを照会しているところです。機械対応が出来れば、早急に取り進めて参ります。

* コインランドリーについて

〈入院患者／51歳・男性〉

コインランドリー設置してほしい。

お答えいたします

ご不便をお掛けしており申し訳ございません。院内のスペースの関係で、コインランドリーを設置することが出来ません。地下2階にあるリネン関係受注業者の栄久をご利用いただくことも可能ですので、ご検討ください。

* 非常階段について

〈入院患者／75歳・男性〉

非常階段の扉が患者のIDカードで開錠できない。

お答えいたします

火災報知器が火災を察知した場合は自動で一斉に開錠されます。
またその他非常時だと判断された場合も開放される使用になっております。

* 駐車場について

〈外来患者 / 女性・45 歳〉

身体障害者用駐車場の台数が少ないため駐車しづらく、車イスの出し入れが大変。

お答えいたします

敷地の関係で、駐車場を増設することは難しいかと存じます。満車時は桜の木の下のスペースを一時的に利用するなど臨機応変に対応致します。

病院への手紙について

患者様から寄せられる「病院の手紙」につきまして、病院長をはじめとする当院幹部役職者が目を通したうえで、該当部署に回答及び今後の対応などを報告させています。

また、月 1 回開催している医療サービス委員会において改善案の計画・立案を行っておりその中で改善できるものは早急に改善し、検討を要するものは少しでも患者様のご要望にお応えできるよう日々努力しております。

この「病院への手紙」については、性格上そのほとんどが匿名であることから、該当部署から直接ご本人に回答することは出来ませんが、皆さまからのご意見を当院の貴重な財産として真摯に受け止め、より良い病院づくりの一助にしたいと考えております。

なお、皆さまからのご意見、そしてその回答については、この病院だよりを通じて一部ご紹介させていただきますが、それ以外のものにつきましても、現状において可能な限り然るべき対応を行っていることをご理解賜りたいと思います。

エコキャップ回収活動報告書

拝啓 貴院におかれましてはますますご隆昌のこととお慶び申し上げます。平素より、格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

ご協力させて頂いておりますエコキャップ回収活動について下記のとおりご報告させていただきます。

今後も本活動に係わらず可能な限りのご協力をさせていただきますので、ご理解、ご支援のほど宜しくお願い致します。

敬具

記

1. 期 間： 平成 29 年 2 月 25 日～平成 29 年 11 月 29 日（277 日）
2. 個 数（重 量）： 44,685 個（103.92kg）
※約 4,840 個 / 月（30 日換算）
3. ポリオワクチン換算： 51.92 人分
※約 5.6 人分 / 月（30 日換算）

以上

獨医連 阿波おどりへの誘い いづな

獨協医科大学埼玉医療センター 薬剤部 高木 雄一

「踊る阿呆に見る阿呆」でおなじみの阿波おどり。南越谷での阿波おどりは今年で 34 回を重ね、年々規模が大きくなっている越谷市の夏祭りです。徳島・高円寺に続いて三大阿波おどりの一つに数えられ、そこそこの風格もまとってきたように思います。

当院は今年も教職員及びその家族などで構成した「獨医連」として参加しました。昨年は強雨でスタート数分後に中止となり、これまでの中でもはじめての体験でした。今年はたくさんの台風発生にビビりながらも、当日は台風一過の暑さで、大汗をかきながらたくさんの「踊る阿呆に見る阿呆」たちが集まりました。



さて私達「獨医連」ですが、病院設立時より長年参加させていただいています。これは病院の大きな理解と関係者の協力があることで感謝の念に堪えません。さらに観ていただいた多くの方から「良かったよー」や「頑張って」など、かけていただける言葉は私達にとって掛け替えのないものとなっております。



特に各病棟での「病棟流し」（残念ながら今年はできませんでしたが…）は、手前味噌ながら患者さんに非常に好評なのではないかと思っています。普通の業務以外での患者さんとの交流ということで、「あの先生が？」とか「いつもの看護師さん？」とかいうつぶやき、それと同時にあらわれる少しの驚きと笑顔に（時にはうれし涙も…）新鮮な喜びを感じているところです。そのような

感動に魅了されたメンバーが今年も増え、大きな原動力となっている歴代のメンバーとが融合して、「獨医連」の歴史がますます盛んになることを念じてやみません。

これからも毎年 8 月には南越谷阿波おどり、特に「獨医連」の踊りに・鳴り物に・その心意気に酔いしれていただき、夏のひとときの 1 ページにさせていただければ幸いです。

さぁ～皆さん、一緒に！「やっとさー、やっと、やっと！ 踊りは獨協さっ！」

